

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103411		
法人名	社会福祉法人 春秋会 リエゾン長崎		
事業所名	グループホーム リエゾン長崎		
所在地	長崎県長崎市江川町92番地		
自己評価作成日	令和5年6月18日	評価結果市町村受理日	令和5年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念を大切にしている。日々の生活の中では職員がすべて行うのではなく、入居者のできる事を見極めやりがい、楽しみを持って頂ける様に支援している。例えば食器拭き、洗濯物のたたみ、野菜の収穫、生け花など。介護の場面でも、その方の能力を落とさないよう、介護、声かけの工夫などでトイレの自立の支援に気をつけている。また法人内の連携でリハ職、看護職が定期的に介入しており、健康面、福祉用具の選定など、その人らしく生活出来るように支援している。GH内だけでの生活ではなく、グループ内での行事、地域行事への参加も意欲的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問介護、デイサービス、ケアハウスなどを併設している当ホームは、単体のグループホームだけではできない面をサポートできるチーム作りを法人全体で取り組み、看護師やリハビリ職員も定期的に介入し連携協働することで入居者や家族へ満足度の高い支援を行っている。地域と顔が見える関係性を作ることを大事にし、積極的に地域の行事や会議にも参加し、日頃より何かあったら地域に協力する体制作りを心がけており、地域住民からの信頼も厚い。新型コロナウイルスが5類に移行後、時間の制約はあるものの、入居者の居室での面会を可能とし、入居者や家族の要望にできるだけ寄り添いたいというホームの姿勢が感じられる。職員は慌てずゆっくりとした支援を大事にしていることが窺え、毎月、入居者の様子が分かる写真付きの便りで家族へ伝えられており、家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念を共有し、入居者様に合わせた穏やかな日常を支援するよう心掛けている。	ホーム入口付近に職員、家族、来訪者がすぐ目に入るように理念を掲げている。職員は理念を念頭に日々の入居者支援の中で慌てずゆっくりとした雰囲気や大事にすることを実践し、理事長を筆頭に理念の浸透に取り組んでいる。職員は常に理念を意識し、日々入居者が穏やかに過ごせることを大切にしたいとの思いで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の期間、以前ののような地域への参加が減少した期間もあったが、法人内(ケアハウス・デイサービス)との合同行事、また月一回の地域行事「あいさつ運動」参加している。	当法人が地域のコミュニティ協議会に所属し、自治会と一緒に祭りの企画・参加や防災マップ作りと積極的に地域に関わっている。月に1回の地域の行事「あいさつ運動」には入居者とともに職員が街頭に立ち、なじみの顔作りに努めている。認知症カフェの講師として出向いたり、地域の方に向けホームの見学など実施し、開かれたホーム作りを心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コミュニティ協議会のメンバーとしても認知症サポーターの育成など取り組みに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催。新型コロナの影響でリモートでの開催もあった。事業所の報告はもちろんだが、有識者または家族よりの意見、提案受け止め改善に努めている。	市、地域包括支援センター職員、地域住民、入居者家族の代表を会議メンバーとし、2か月に1回運営推進会議を開催している。入居者の状況やサービスの取り組みを報告し、話し合いの場を設けることでサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議などへの参加を積極的に行い、情報収集等に努めている。また不明な点があれば随時聞いている。また運営推進会議への参加依頼し連携している。	行政や地域包括支援センターからの依頼を受け、地域住民に対し講座の講師を派遣するなど、行政関係機関との協力体制ができています。また、職員は市が主催する研修会にも積極的に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	また法人内で拘束しないケアについて研修を行っている。また随時ではあるが、資料等の提示を行っている。リスクマネジメント委員会、運営推進会議、管理者会議でも情報共有している。	月に一度法人内で委員会を開催し、その後、ホームの職員を対象にミニ委員会を開催し、参加できていない職員には、報告書を読み理解するよう促している。日中は入居者の見守りや声掛けができる環境作りを行い施錠しない対策を講じている。夜間は転倒のリスク対策のため、家族に同意を得た上でセンサーを使用している入居者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は講師を招いて法人内で研修に参加している。また資料等は随時配布している。管理者としては、今後積極的に外部の研修にも参加予定。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の方が成年後見人制度を利用されている。不明な点は後見人の方への確認等おこないながら制度の理解に努めている。今後研修等にも積極的に参加し理解を深める予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には出来るだけシンプル、正確に説明するよう心掛けている。不明な点などないか確認を行うように注意している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のミーティングまたは定期的な法人研修の場で意見、提案を聞く努力を行っており、出来る限りの反映を行うようにしている。また外部評価のアンケート結果参考にさせて頂き取り入れている。	コロナ禍により面会制限を実施していたこともあり、家族に対し毎月写真付きの手紙を発送し入居者の様子を細かく伝えるようにしている。ホームの入り口には意見箱を設置し、また、運営推進会議の中でも意見や要望を聞く機会を設けて家族等の意見の反映に努めている。	重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるよう、第三者(外部)評価実施の有無、第三者(外部)評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載すると共に、外部評価の受審時には家族に対しアンケート調査があり客観的に家族意見等を汲み取る機会となる旨を伝えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどを通して職員の意見を聞く場面を設けている。また必要に応じて個別で意見を聞く場面を設けている。できる限り反映するようにしていきたい。	朝の申し送り、月1回のミーティングや申し送りノートなどを活用し、職員が意見や提案が言えるような仕組み作りを実施している。訪問調査時における職員ヒアリングでは「上司の方との壁はない」と発言されるなど、職員と円滑なコミュニケーションができていることが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者で職員の思いを個別に聞き取る努力は行っている。また、昨年より、新たな勤怠管理アプリの運用を行っており、勤務時間の見える化、業務の効率化を行い働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催の法人研修への研修への参加促進を行っている。法人内に限らず、今後は施設外研修も計画に入れている。新人職員へは定期的な面談を行い、状況の確認を行っている。またセラピストによるミニ勉強会も開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦もあり、他事業所との交流の機会がほとんど行えなかった。法人内では研修などの機会交流できる場面づくりなどに取り組んだ。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、各関係者よりの情報収集を行い本人との関係づくりに努めている。GHの特性もしっかりお伝えしながら、安心した生活ができるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方へも当事業所の特色など理解して頂くようの説明をしたうえで、ご家族の要望等お伝えさせていただきようお話をしている。細かい事でも遠慮なくお話し頂く雰囲気づくりも努めている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を頼りにサービス開始しているが、その方のできる事を見極め、支援方法を随時検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護が仕事ではなく、その人らしく生活出来る為の支援の一部と考えている。地域で生活されている事を念頭に置き役割をもつなどの関係づくりを考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙を通して日頃の様子をお伝えしている。ご家族にしかできないこともあり、その際には協力して頂くようお願いする事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけではあるが、本人の馴染みの場所などへ一緒に外出を行っている。また希望されるかたの年賀状などの支援を行っている。ケアハウスから入居された方は職員または他入居者との関係も継続している。	新型コロナウイルスが5類に移行後、面会の時間制限を設けているものの入居者の居室で面会できるよう配慮している。またケアハウスの利用者との交流も続けられるよう支援するなど、馴染みの人や場との関係継続に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブル防止の為、関係性も含めての観察を行っている。また利用者同士の良き関係性が保てるように職員が間に入るように声掛け等を行っている。食事の際のテーブル席も関係性に気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣のご家族とお会いした際は、状態の確認や、思い出話など行うなど関係づくりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行う中で、生活歴や趣味などの把握に努めている。日頃の会話の中にも意向などのヒントが見つかる事もあるため、その都度コミュニケーションも大切にしている。	入居前、その方がどのような暮らしを行っていたかなど、事前に家族等へ確認し、入居後も安心して暮らせるよう努めている。アセスメント表を参考にしながら、表情や会話の中で入居者本人の思いをくみ取るために一人一人に対して声かけや支援方法を職員間で情報共有し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、どのような暮らしを行っていたかなど、事前にご家族等への確認を行っている。居室にはなるべく馴染みの物を持って頂き、安心した生活を支援できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりにあった生活、できる事の見極めに努めている。日頃と違う状況の時には職員間で情報共有を行い、観察の強化を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・ご家族の要望を聞き取りプランを検討している。モニタリング、スタッフ間での情報共有をサービスの見直し、改善を行っている。	介護計画は常に職員が確認でき、目標を達成できているかを職員間で共有している。計画作成担当者は毎朝、職員からの申し送りや個人記録でモニタリングを行い、入居者の状況に応じた介護計画を作成し、評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、日々の様子気づきなど毎日記録に残している。月一回のミーティング時に情報共有はもちろんだが、日々気になることがあれば職員間での情報共有、相談等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り希望に添えるようサービス提供を行っている。その時々で既存にない希望されるサービスあったが法人内で検討を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域コミュニティ協議会にも所属しており、地域資源の把握しやすい状況にある。入居者の方にできる事もその際に検討、支援できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時など、必要に合わせてかかりつけ医の相談などを行っているが、かかりつけ医はご本人、ご家族の意向に合わせている。またご家族付き添いでの受診の際には主治医へ情報提供書を職員で準備している。	協力医により2週間に1回訪問診療を受けている。協力医以外を受診する際は家族が受診対応している。家族が対応できない場合は自費サービスにて職員が対応している。薬の変更などがある場合は、内服薬・受診記録簿や申し送りノートで職員間で情報共有を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と連携を図っており、随時相談できる環境、また主治医よりの指示あった場合適切な看護で支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は、ソーシャルワーカーよりの情報をもとに早期の退院または回復できる体制を心掛けている。介護職員だけではなく、法人内のセラピストも連携して情報共有を行っている。また入退院の際はご家族とも情報共有など努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期と考えられる場合は、主治医よりの説明等職員も立ち合い、ご家族の意向も大切に考える。最後まで「その人らしさ」が何かを大切にしている。	入居者が重度化した場合は主治医の説明に管理者も立ち会い、家族の意向にできるだけ添えるように心がけている。看取りに関する研修を法人内で行っており、職員は研鑽に努めている。現在、ホームで看取りは行っていないが、管理者は、今後、家族や本人が希望に応じて看取り支援を行う意向である。	看取りに対するホームの方針を明確化し、その実現のための職員研修、医療連携体制や看取りが終わった後の職員のフォローをどのように実施するかなど検討し、今後のホームでの看取り支援体制の構築に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの作成をおこない、随時確認を行っている。応急手当等は各研修でも取り入れている。また事業所内だけではなく、法人内の看護師など連携を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月1回は必ず火災を含む避難訓練を実施している。法人内だけではなく、地域での防災訓練にも参加しており、地域との連携を大切にしている。火災を防ぐために日頃よりコンセント回り、火元などの確認を行っている。災害時などの近隣職員へ応援依頼できるように、グループ内での連絡体制を整えている。	定期的に火災や自然災害を想定した訓練を実施している。また持ち出しリストや備蓄品も整備している。日頃より、コンセントのほこりや家電の異常がないかなどチェックシートを用いて点検を行い、火事を出さない対策を講じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の性格や生活歴を考慮し、その方に合わせた声かけを行っている。居室内などその方のプライバシーを守ること、不適切ケアに繋がらないか考える。	職員はゆっくりと接することを心がけ、入居者を慌てさせないような声掛けで支援に努めている。法人内で認知症ケアの研修などを実施し、職員は入居者一人ひとりにあった支援を意識し、実践に結びつくように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体ではなく、小さなことでも選択の場面では入居者の方へ選択していただく、また選択しやすい声かけを心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日のルーティーンはあるが、その日の体調、気分に合わせて入居者第一の1日を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容のにて散髪されている。馴染みの美容室に行かれる方もいる。特に外出時などはその方の好みの洋服なまた、お化粧される方、クリームなどつける方など身だしなみを気をつけている。またお誕生日会等特別な行事の際も、入居者と一緒に洋服を選んだり		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下ごしらえ、盛り付けなど一緒に作るよう心がけている。時には味見をして頂きアドバイスをもらう事で、美味しい食事作りの一役を担ってもらっている。	入居者がホームの菜園で育てた野菜を食材に使ったり、簡単な下ごしらえや盛り付け味見など職員と一緒にいることを大切にしている。箸や湯飲みは使い慣れたものを使用し、行事食も取り入れ、誕生日にはケーキや本人の好物のメニューを食卓に並べ祝っている。職員と一緒に食卓を囲み、食事中はテレビを消して食事に集中できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、飲水量はその都度把握を行うよう努めて、主治医にも報告を行っている。体調、嚥下能力の観察をして食事形態の検討、または主治医専門職への相談を行いながら支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施。その方の能力に合わせたケアを行っている。また定期的に歯科往診があるため必要時、報告また相談が行える状況が出来ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がなくても定期的なトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。なるべくオムツ等に頼ることはせずに、入居者の能力に合わせた自立支援を行っている。いつもと様子が違うなどのサインも見逃さないように気をつけている。	排泄の自立に向け、排せつチェック表を活用し入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った声かけ誘導を行っている。職員は入居者の素振りや様子を観察し、排泄のサインも見逃さないよう留意しながらトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的なトイレ誘導を行っている。能力また排泄の時間帯などの把握を行いトイレへの誘導を行っている。水分もしっかり摂り、運動も心がけている。また排便がない場合の対応も主治医と確認を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、一日おきに入浴をご案内しているが、その日の気分、体調などに合わせて変更も行っている。入浴は個人浴の利用となっている。	個浴で対応し週に3回入浴できるように支援している。入浴できない場合は、清拭、陰部洗浄などを行い清潔保持に努めている。しょうぶ湯やゆず湯など、入居者が季節感を感じられる工夫をしている。	ヒートショックを防ぐためにも浴室内外の温度差を把握することが重要であることから、脱衣室に温度計等を設置することにより室内外の温度を見える化し、温度差が小さくなるよう環境整備に取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、日中は無理のない程度の活動を行ってもらっている。夜間は安眠できる環境作りを心がけている。睡眠の状況も把握に努めており、情報共有おこない、必要時にご家族主治医に報告行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用等、個人記録で確認できるようになっている。用法、副反応など気になる点があれば薬剤師の方へも相談、報告できる連携がとれている。居宅管理指導の利用し薬剤師の訪問もあり。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、食器の後片付けなどできる事をみながら、一緒に行っている。TV鑑賞、畑仕事、家事などその方の好みに合わせたサービスを提供している。その人の役割を見出すことで残存能力の維持に努めている。また関わり方利用者に合わせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の会話から、その方の希望する外出先の把握に努めている。近場への散歩などすぐできる事はその都度支援行っている。またご家族の方と外出されている方もいる。	ホームの近くには公園や花見見物ができる場所があり散歩など日常的に行っている。また本人家族の希望で墓参りの外出支援も行い、入居者から好評を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心のためにおこづかい程度持っている方もいるが、居室内でのお金の管理は安全面を考慮し遠慮して頂いている。事務所にてお金の管理をしており、買い物等ある時は必要な金額を職員が準備している。その方に合わせてであるが、支払い等行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もいる。ご家族よりの電話または遠方のご家族とのTV電話(LINE)などの支援は行っている。年賀状も出されている方もおり、その支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面、室温、湿度、音楽など穏やかな日常を送れるような空間づくりを行っている。また入居者と一緒に作成した季節の作品、また季節のお花など飾り、家庭的な雰囲気を心がけている。職員の関係性も居心地のいい空間づくりの一部と考えている。また特に夜間に不快な音出さないなども気をつけている。	リビングでの入居者の席の配置は入居者それぞれの関係性を考慮した上で決めている。壁面には入居者と一緒に作成した作品や花などを飾り、家庭的な雰囲気が感じられる。共有部分は職員が毎日掃除を行い、臭気防止や清潔な環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節感も大切に空間し、誰もがいつでも安心して生活出来るようなスペースを準備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活がしやすいように本人様と確認しながら一緒に環境作りを行っている。また馴染みの物を置いていただいたり、思い出の写真など安心して生活できるような空間づくりに努めている。	ホームでは入居時に馴染みのある物を持ち込んでもらうよう家族へ依頼し、自分の部屋だという認識を持ってもらうことで入居者本人が安心して居室で過ごしてもらえるよう心がけている。また、冬は家族に加湿器を準備してもらい、感染症の予防に努めている。入居者一人ひとりに担当職員を決め、衣替えや部屋のレイアウトなども季節に応じて行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフ間でできる事の共有をおこないながら、残存機能を落とさないような支援を心がけている。必要に応じて、環境整備、福祉用具の見直しをセラピストと含めて検討している。		